

研究者交流支援制度 報告書

< 招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar >

1. 氏名/Name

Ana María Lara Palma

2. 所属機関・職名/Affiliation (Home Organization)・Position

ブルゴス大学・教授

3. 研究期間（入国日～出国日）/Period of Stay（from the date of entry to departure）

2026年2月23日～3月4日

4. 専攻/Field of Research

産業工学

5. ホスト教員氏名と所属学部研究科等/Name of host teacher and affiliation

ピニロス・マツダ・デレク・K/ 国際日本学部

6. 講演会の概要（タイトル、日時、場所、参加人数、内容）

タイトル

Intelligent Ethics and Professional Skill Development in the “AI Era” ワークショップ

日時

2026年2月28日 13:00～15:00

場所

明治大学中野キャンパス 1401 教室

参加人数

7名

内容

本ワークショップでは、スペイン・ブルゴス大学の Ana María Lara Palma 教授による講演をもとに、AI 時代における専門職倫理とプロフェッショナルスキルの重要性について議論が行われた。講演ではまず、ヨーロッパ企業の人材育成において重視されているソフトスキル（コミュニケーション能力、チームワーク、時間管理、批判的思考、リーダーシップなど）の概念が紹介され、ハードスキルとソフトスキルの違い、および職業人生における態度や人格の重要性について説明された。

続いて、AI の普及が職場文化や職業倫理に与える影響について議論され、AI による意思決定の自動化、透明性の確保、デジタルリテラシー教育の必要性など、現代の職場環境における課題と可能性が提示された。また、AI と共存する職場において求められる能力として、協働、責任感、柔軟性、問題解決能力、信頼性などの要素が挙げられた。

ワークショップでは参加者同士のディスカッションも行われ、AI 時代における人間の役割や、多文化環境におけるコミュニケーション能力の重要性について意見交換が行われた。少人数での実施であったため、講師と参加者の間で活発な質疑応答と意見交換が行われ、AI

と倫理、職業能力育成に関する理解を深める機会となった。大学の教員が多かったこともあり、授業の中での AI の活用方法や現在の悩みについて意見交換も行った。

7. 研究課題、研究概要、研究期間中の活動実績 / Research Theme, Outline, Results

本研究では、AI 時代における学生の学習・思考・意思決定における AI 活用の実態を明らかにすることを目的として、質的調査を実施した。本研究は、AI・ICT と教育、デジタル社会における倫理的課題などをテーマとする共同研究の一環として実施されたものである。

当初は学生への聞き取り調査を複数名に対して実施する計画であったが、実施時期や学生の都合により、当初予定していた学生数よりも少ない 3 名の対面インタビューを実施する結果となった。一方で、本研究に関連する授業に参加していた学生のうち 5 名が、後日オンラインインタビューに協力してくれると意思表示してくれたため、これらの学生を対象に追加の聞き取り調査を行う。

インタビューの結果から、学生は日常的な学習や情報収集、課題作成の際の補助などにおいて AI を積極的に活用していることが明らかとなった。一方で、AI の出力をそのまま受け入れるのではなく、自身で内容を確認し、他の情報源と照合しながら活用しているケースも多く見られた。すなわち、学生は AI を単なる代替手段としてではなく、思考や作業を補助するツールとして位置づけ、主体的に活用していることが示唆された。

今後は、本調査で得られたデータを質的に分析するとともに、さらに多くの学生へのインタビューを追加的に実施することで、AI 活用の実態や学習行動の変化をより体系的に明らかにする予定である。特にオンラインインタビューを中心に調査対象を拡大し、研究成果の学術的整理と論文化を進めていきたい。